

株式会社ジェイコム東京 東エリア局 南エリア局 西エリア局

2015 年度 放送番組審議会 議事録

2015 年度の放送番組審議会は、2016 年 3 月 18 日(金)、J:COM 東京 東エリア局で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

大社 千晃 様	※中田委員の代理	永田 浩三 様
堀田 純一 様		松戸 克彦 様
三谷 啓子 様		宮澤 誠一 様
山下 隆久 様		山田 隆史 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【審議 質疑応答・意見交換】

(日々のニュース発信、特番化、行政キャンペーンへの協力)

委員 「デイリーニュース」が始まったことで、毎日のように練馬区の問題を取り上げてもらい、大変感謝している。

また、3 月 27 日に生中継される「練馬こぶしハーフマラソン」では、イベント内容に加え、練馬区の魅力も紹介してもらえるとということで期待している。

さらに、練馬区が実施している広報キャンペーン「よりどりみどり練馬」において CM を制作した際、J:COM に当該 CM のメイキング映像を作ってもらった。今回制作した CM にはたくさんの区民が出演しており、メイキング映像は YouTube 等を通じて多くの区民に見てもらうことができた。行政と区民が一体となって取り組んだ本キャンペーンにも協力してもらい、ありがたく思っている。

(地域情報のレポート発信、ケーブルテレビならではの映像化)

委員 「ジモトピ」については、昨年 10 月にたっぷり時間を掛けて杉並を紹介してもらった。しかも、その後、何度も再放送があり、初回放送を見逃した方も視聴できたのが良かったと思う。

「デイリーニュース」の中では、特に大雪情報が役に立った。生活に密着した地域情報を映像で見られるのは、ケーブルテレビならではのことだ。

(メディアミックスによる広報活動、区民を元気にする情報発信に期待)

委員 現在、杉並区では、紙媒体、インターネット、テレビ番組を含めた広報活動を大きく変えていこうという機運がある。具体的には、今年の4月から民間の人材を活用するため、広報専門官という立場の方を非常勤職員として招いて、今までに無い大胆な広報戦略を展開していきたいと考えている。

J:COM では広報番組「すぎなみニュース」が放送されているが、4月から本番組内に5分のコーナーを作り、そのコーナーをYouTubeで配信する予定である。この新たな取り組みに対して、的確に応えてもらっており、感謝している。

また、「デイリーニュース」や「ジモトピ」では、行政がカバーし切れないような町の小さな話題が取り上げられており、区民の方から『番組を見たよ!』という声を聞くことがある。

今後も、区民が元気になるような、そして杉並区の魅力を発信していけるような番組と一緒に作っていきたいと思っている。

(「デイリーニュース」による地域情報の拡大、スポーツへの貢献)

委員 J:COMの規模が大きくなったことで、『J:COMチャンネルから府中の話題が消えつつある』との声を市民の方から聞かされるのが、これまでにあった。

しかし、「デイリーニュース」がスタートしてから、変化が起きた。それまでのJ:COMの番組制作サイクルは1週間から10日だったが、「デイリーニュース」は毎日更新であることから、『府中の情報がたくさん放送されるようになった』と市民の方から反響が寄せられている。行政としても非常にありがたいことだと思っているので、現状を維持して欲しい。

また、昨年のラグビーワールドカップで大活躍した日本代表31人の内、11人が府中市からの選出であったことから、代表の報告会を検討することになった。その際、行政単独での開催は困難だったので、J:COMに協力要請をしたところ、快く引き受けてもらい、さらに全国放送もしてもらうことができた。今後、府中市は、2019年のラグビーワールドカップ日本開催、並びに2020年東京五輪において、キャンプ地誘致を目指しているため、引き続き協力をお願いしたい。

(地域イベントの盛り上げ、シティプロモーションへの期待)

委員 「デイリーニュース」や「ジモトピ」において、全国規模のイベントだけでなく、地域の図書館で開催される小規模イベントまで丁寧に紹介してもらい感謝している。特に、今年1月に開催された「ニッポン全国鍋グランプリ」は、「東京生テレビ」で生中継され、イベント会場が例年以上に盛り上がったほか、市民から市役所へ『和光市のことが紹介されて良かった』、『自分の子供が映って嬉しかった』などの声が届けられた。

来年度、和光市の秘書広報課にシティプロモーションの担当者が配置されるので、今後も連携して情報発信させてもらえればと思っている。

(地域ニュースと安心安全をセットに！、地域密着の施策を評価)

委員 過去の放送番組審議会場で、大雪などの時に地域情報を丁寧に伝えるべきとの指摘をしたが、今年度スタートした「デイリーニュース」が、地域のお困り事を取り上げるようになったことに好感を持った。現在、高齢化をめぐる問題が各地で起きている。具体的には、一昨年、中野区の路上で倒れていた認知症の男性が、保護されずに死亡するという事件があった。ラジオが、行方不明の認知症者を取り上げることは全国的にあるが、テレビでの事例は少ないと思われる。J:COM は映像メディアを持っているので、行方不明の認知症者を探す場合に最も訴求力があると思う。他のメディアにはできない、地域のニュースと安心安全をセットにした放送を検討してもらいたい。

また、地域密着の施策として、地域プロデューサー（地域ステークホルダーとの関係構築を担う J:COM 社員）と地域アナウンサーを育てていくということは、とても評価できる。放送は人材によって支えられているので、伝える言葉や中身で、他メディアとの差別化を図ることは大事なことである。日常的なネタを扱いつつ、情報のきめ細かさや地域メディアならではの個性を伝え手が分かっていることは、ケーブルテレビの生命線になるので頑張ってもらいたい。

さらに、ラグビーのブームを上手にすくい上げ、番組に生かしているのは素晴らしいことだ。今後も同様の取り組みに期待したい。

委員 NHK でも地域のネットワークを活用し、地域ニュースの放送時間が増えており、さらにネットで配信している地域の詳細情報も支持されているということなので、地域密着の施策を推し進めて欲しい。

(地域情報の大切さ、スマートフォンでの情報発信を提案)

委員 J:COM 視聴者数は、意外に増えているのではないかと感じている。

『ビジネスマンはテレビを見る暇なんてないよね』という声がある。また、地上波民放については、広告主がコストを削減する中、高視聴率番組へ広告宣伝費を集中投下するようになり、その他の番組の質が落ちていると思われる。そのことは視聴者が痛感していることで、どのチャンネルを見ても同じようなお笑い芸人が出ていたり、同じようなグルメレポートだったりするというイメージが持たれており、テレビ離れが進んでいると言われている。

しかし、地域を大切にしている情報は求められていて、そのような情報を発信している J:COM の視聴率は高まっていると思う。例えば、毎年開催される「よさこい in 府中」に参加するある踊りの連には、40 歳から 80 歳の女性を中心に約 100 人のメンバーがい

る。自分たちが出る番組が放送されるということで、彼女等により番組情報が口コミで一気に広がり、結果、番組視聴につながった。また、昨年秋、西東京市の情報を発信するWEBサイトにおいて記事の書き方教室を開催したところ、『J:COMの番組「ステキ+Life」をずっと見ていて、その出演者が講師を務めるということで参加した』という方がいた。

話は変わるが、大雪の影響で電車が遅延した時、車内にいる人の大半はスマートフォンで情報収集している。J:COMが地域情報の発信、特に災害等の緊急時対応を強化しているのなら、スマートフォン上にJ:COM情報を見られるページを開設してはどうだろうか。それが実現すれば、J:COMへの信頼度が増し、交通機関等への取材も受け入れてもらい易くなると思う。さらに、若年層の大多数はパソコンを持たず、スマートフォンをコミュニケーションツールにしているので、スマートフォン対応は若年層の利用者拡大につながると考える。

(町へ出て情報の絆作り)

委員 記者やカメラマン、リポーターが町へ出ていくことにより、地域の方々と顔見知りになり、その安心感から気軽に声を掛けてくれるようになるでしょう。情報の絆作りとして有効だと思うので実践してみたい。

(障害者差別解消法への対応は?)

委員 今年の4月から障害者差別解消法が施行される。これを受けて、番組の中での手話や字幕放送などについて、ケーブルテレビ業界としてどのような検討がなされているのか？

事業者 国からの指導もあり、できる限り手話や字幕放送等に取り組むようにとの指針は出ている。J:COMについては、現在、字幕放送の設備を導入していないため、テロップ、または手話をできる限りの番組において入れるようにしている。字幕放送に関しては、具体的にいつからということとは申し上げられないが、しかるべきタイミングで導入できるよう全社的に検討している段階である。

(イベントの過程も見せるべき!、スポーツ・緊急時・通販番組への提案)

委員 イベントの様子を伝えるだけでなく、行政の職員と地元の方が協力してイベントを構築していく過程も紹介して欲しい。例えば、練馬大根引っこ抜き競技大会のニュースでは、大根を抜いているシーンしかなかった。行政と地域の密着度を示すには、早朝から区の職員と地元の方が一緒になってイベントの準備をしている姿を映像で見せて欲しい。

また、地元の方からの情報をどのように吸い上げていくのかが見えるとよいだろう。

そのほか、スポーツネタとしては、杉並区に早稲田大学のラグビー部があるので、そちらの話題を取り上げてみてはどうか。

災害等の緊急時対応については、鉄道の遅延や事故も含まれると思うので、その際の速報力を高めて欲しい。

最後に、夜中は通販番組ばかりなので、例えば午前1時、2時、3時からそれぞれ10分程度、「デイリーニュース」の再放送やイベント情報等の放送を検討してみてはいかがか。

事業者 J:COM がお届けしているニュースについて、市民の皆様から、行政および審議委員の皆様へ入っているお話を伺うことができ、認識を新たにすることがあった。

また、それらのお話により、コミュニティチャンネルを作っているメンバーはモチベーションが上がったと思う。

今回の審議を通して、大雪等の緊急時における情報発信の方法、新たなスマートフォン世代への対応、手話や字幕放送への準備などについてご指摘を頂いた。システム的な問題もあるが、社会の要請に応えていくことが大事なので、他社に負けないよう、できるだけ速やかに適切に取り組んでいきたいと考えている。

また、コメンテーターやキャスターのコメント内容に関しては、一定レベルを保つ必要があると感じた。

最後にご指摘頂いた夜中の通販番組の枠については、地域番組を再放送するなど前向きに検討していこうと思っている。

以上